

# 三浦半島にいきづく「童謡・愛唱歌の歌碑」を訪ねて

～歌碑などに刻まれた想いは～

2018年3月11日に「3.11 あの日を忘れない・・・東日本大震災 遺児育英資金チャリティコンサート」を開催します。三浦半島にいきづく心のふるさと「童謡・愛唱歌コンサート」演奏予定曲の「さくら貝の歌・真白き富士の根・めだかの学校・城ヶ島の雨・歌の町」の歌碑を訪ねました。



さくら貝の歌

逗子市の波子不動（高養寺）下にある「さくら貝の歌」の歌碑からは、逗子海岸が望めます。作曲家の八洲（やしま）秀章が、故郷に残した初恋の女性の死を悼んで、由比ヶ浜海岸で見つけた一片のさくら貝に心境を託して詠んだ和歌を基に、逗子町役場に勤める友人土屋花情が逗子海岸を散策しながら想を練り、歌詞を完成させました。

逗子開成学園にある「真白き富士の根」の歌碑の右前には折れたボートのオールを象ったボート遭難を追悼する碑が置かれ、左隅には、「明治四十三年一月二十三日七里ヶ浜沖に於て遭難せる生徒の霊を慰むるため昭和三十八年本校創立六十周年にあたりこれを建つ」とあり遭難者12名の氏名が刻まれています。



真白き富士の根



めだかの学校

横須賀学院前にある「めだかの学校」の歌碑にある説明には、歌が生まれるきっかけとなった茶木親子の会話があります。「お父さん、めだかがいるよ」「おまえが大きな声をあげたからびっくりして逃げたんだよ」「待っていればくるよ。ここ、めだかの学校だもの」横須賀出身の作詞者の茶木滋と作曲者である中田喜直の略歴も記されています。

「城ヶ島の雨」は、大正2年に北原白秋が相州三崎の城ヶ島の前に住んでいた頃、芸術座音楽会のために舟唄として作ったものです。この舟唄は梁田貞氏の作曲で、芸術座音楽会で唄われました。白秋は、「近頃聞けばかの地では今は船頭たちまで唄っているそうだ」と言い、そうしてくれるとうれしいと述べています。



城ヶ島の雨



歌の町

「歌の町」の歌碑は、三浦市白石町の歌舞島公園にあります。三崎で生まれた作曲家の古村三千三と作詞家で詩人の勝承夫によって「歌の町」はつくられました。古村三千三を偲ぶ会は、「2人の曲に込められた平和を願う思いを伝えたい」としています。「歌の町」は、今も、夕方、子どもたちに帰宅を促す防災行政無線のメロディとして市内に流れています。